

忠数ら大久保一族の祖先という武藤泰宗で、粟田関白道兼の裔宇都宮氏の族である。すなわち道兼の曾孫宇都宮座主宗円の子八田権守宗綱の後で、宇都宮下野守景綱の四男五郎左衛門尉泰宗、実名を盛宗と云って本領を武蔵国内にもっていらしい。そのためか子時綱は武藤左衛門尉と称し、また三河守とも称している。この時綱の子が左近将監泰藤で三河大久保氏の祖である。

佐伯地方の武藤氏は十数戸で、県南では大野郡に約三十戸ある。佐伯市内では中村地域を中心に散在しているが、旧城内内町の商家「塩屋」は武藤氏だった。往時佐伯地方では「むとう」と訓まず「ぶどう」と濁っていたが、武藤は姓氏の建前から「むとう」でなければならぬ。

(つづく)



### 表紙解説

## 田野磨崖仏

宇目町大字重岡字田野  
田野区所有

田野磨崖仏は佐伯市南郡における唯一の磨崖仏である。凝灰崖の岸壁に、地上三層五〇位の高さの所に半丸彫で、高さ八〇位の大きさの阿弥陀如来が彫られている。

その左方に高さ五層五〇位の、一字の大きさ五二層×五二層の「南無大師遍照金剛」の大文字が薬研彫りされている。

中央下に

明和七庚寅八月廿一鳥

長昌寺現住

大峻謹佛像名號彫

剋之行幸五十歳 (以下略)

とあり、これは供養のために造られたものである。

ここにはこの他、窟状に彫り込んだ石窟仏、卒塔婆形の金剛界万霊供養塔等々あり、石仏全体としては奈良時代からはじまっている。

(『ふるさと文化財うめまち』より略記)